

小諸未来義塾の精神は

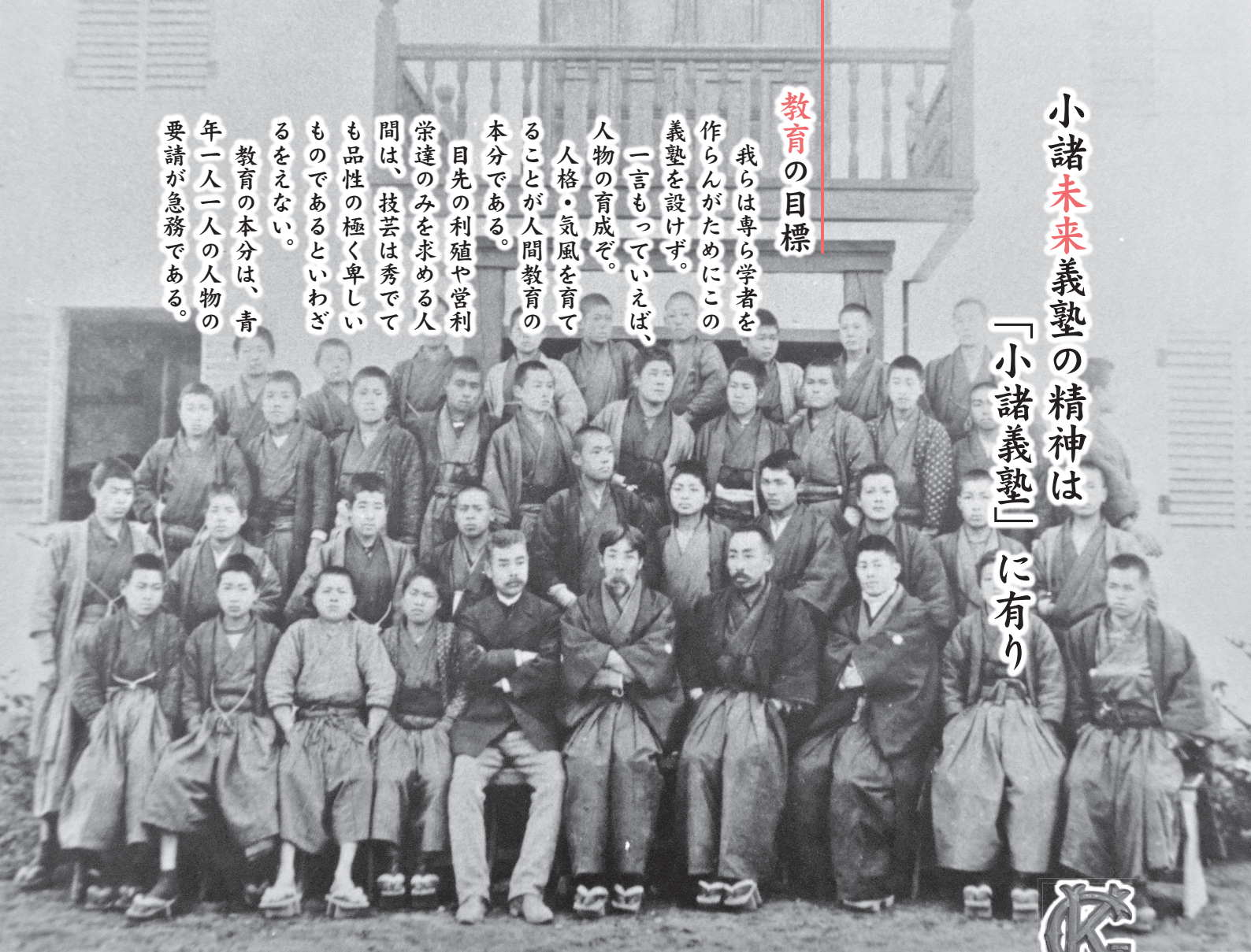
「小諸義塾」に有り

教育の目標

我らは専ら学者を作らんがためにこの義塾を設けず。一言もつていえば、人物の育成ぞ。人格・気風を育てることが人間教育の本分である。

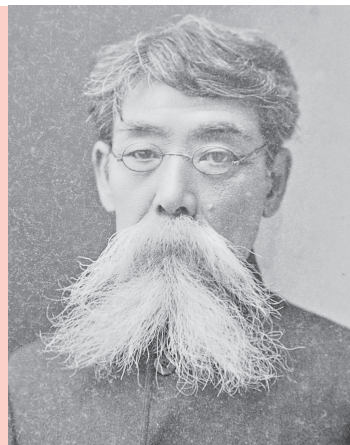
目先の利殖や営利栄達のみを求め人間は、技芸は秀でても品性の極く卑しいものであるといわざるをえない。

教育の本分は、青年一人一人の人物の要請が急務である。



小諸義塾
「徽章」

個性に満ちた教師陣



小諸義塾 塾長
木村 熊二
(1845~1927)

明治初年アメリカに渡り12年の留学を経て、近代の西欧文化を身に付け、小諸義塾を開塾。小諸の三岡で洋桃や苺の栽培を指導、また中棚鉦泉の発掘などその業績は大きい。

明治政府は、富国強兵政策に伴い教育制度も強化した。学制の発布や小学校令により、全国各地には小学校が次々と誕生し義務教育化されていった。しかし、小学校を卒業した子どもがさらに高いレベルの教育を受けたいと願っても、小諸佐久地域には進む学校がなかった。そのような時に小諸の青年小山太郎等の熱い要請に応じて誕生したのが「小諸義塾」である。

塾長にはアメリカの大学で学んできた木村熊二を迎え、一流の教師陣を迎えて充実した教育がなされた。子どもの個性の伸長を願い、目先の知識や技能の習得と共に人格の形成をめざす人間教育を第一義とし、優秀な教師陣のもと自由な教育が展開された。

島崎 藤村 (1872~1943)

明治学院（現明治学院大学）本科卒業後、明治32年に旧師木村熊二の招きにより英語・国語の教師として赴任する。小諸義塾着任以来、小諸の風土などを題材にした『千曲川のスケッチ』は言わずと知れた名作となっている。

